

令和5年度 西城小 学校努力点

学ぶ楽しさ、できる喜びを感じることができる児童の育成
～ 協働的に学ぶ「ピア・ラーニング」に重点を置いて～

5年生のめあて

ピア（仲間）と楽しく交流しながら学ぶことができる
学んだことを実生活に結びつけて生かすことができる

単元

社会科 「くらしを支える食料生産」
算数科 「わくわく算数ひろば
＜人文字・どんな計算になるのかな＞」

学ぶ楽しさ・できる喜びを感じることができる工夫

○ 子どもの生活に結びついた課題の設定

- ・ スーパーのチラシから食料の産地を調べ、生産地日本一の食材だけを集めた「究極の〇〇べんとう」づくりを行う。
- ・ 算数科の「人文字」と「どんな計算になるのかな」の授業で学んだことを生かして、作品展の準備をする。

○ 同じ課題意識をもつ仲間とのピア・ラーニング（協働学習）

ピア・ラーニングの授業の様子

「学びをいかそう わくわく算数」(10月)

ピアで自分たちの作品製作に必要な材料を予算内に収まるように選んだり、立体作品の展示の配置を考えたりする。

会計班：カタログを見ながら、決められた材料を予算内に収めて購入できる商品の組み合わせを考えました。

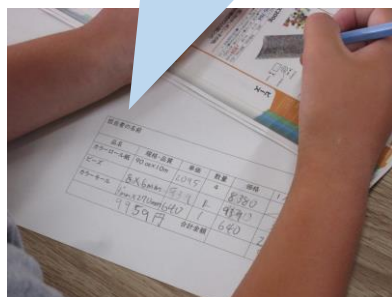


残りの予算で買えるピースとモールは、どれかな。

予算内に収まる買い方を見付けることができました。



ロール紙4色がけっこう高いよ、困ったね…。



立体展示班：「ワイヤーアート」の展示の仕方考えました。

25cm間隔で並べることができるのか、試してみよう。



長机の横幅はどのくらい？

作品の土台の大きさを確認しよう。



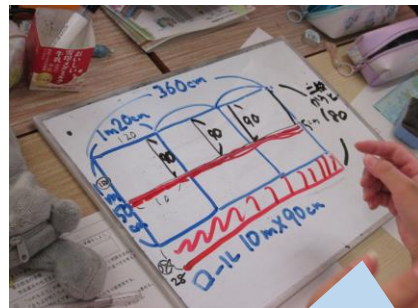
平面展示班：共同作品の「心のもよう」を展示するロール紙の大きさと枚数を計算しました。



ついたての横幅は、120cmだね。



紙を継ぎ足す部分には、のりしろが必要だから、実際の紙の大きさはどうなる…？



ホワイトボードを使って考えを交流したりまとめたりすることができました。

「暮らしを支える食料生産」(6月)

日本の食料生産の広がり方を調べることで、食料産地が地形の特色や自然条件を生かして営まれていることに気付くようにする。

ピアでスーパーのチラシから食料の産地を調べ、生産地日本一の食材だけを集めた「究極の〇〇べんとう」をつくったり、日本の食料生産の広がり調べたりしました。

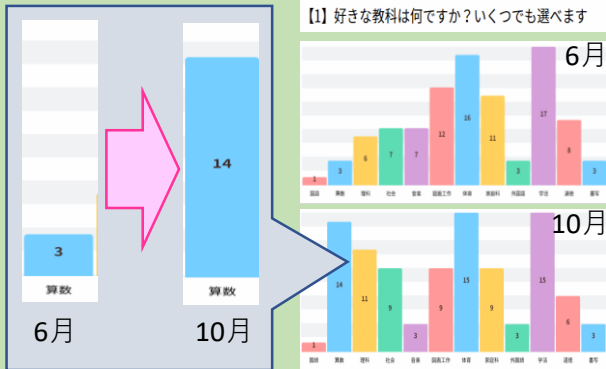
「究極の〇〇べんとう」をつくり、
食材の産地を調べました。

日本の食料生産の広がりをもとめ、
食料産地の特色に気付きました。



児童へのアンケート

【1】好きな教科は何ですか？いくつでも選べます



ピア・ラーニング開始後は、「好きな教科は何ですか？」という問いに対して、算数科を選ぶ児童の数が増えました。

児童の感想

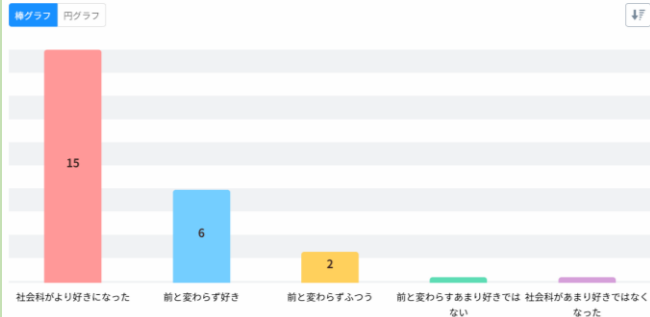
- 算数で学んだことが役に立った。
- みんなで協力して学ぶことができました。
- 自分たちで準備をすることで、作品展が楽しみになった。



取り組みを終えて

- 一緒に課題解決をしたいピアを自分で選択し、共に自律的に学びに向かう児童の姿を見ることができた。
- 児童が選んだ材料を注文して、それを使って作品を製作したり、作品展の展示にしたりすることができた。児童が考えたことが実際に学校行事に生かされる経験を経て、算数科の学びと実生活の結びつきに気付くことができた。

【4】「究極の〇〇べんとう」作りする前と後では、社会科に対するイメージは変わりましたか。



実践後のアンケートでは、社会科がより好きになったと答えた児童が多く見られました。

- みんなと話し合いながら進めることができ楽しかった。
- 友達と協力して生産地を調べたから楽しかったし、意見を出し合えたので、分かりやすかった。
- 「究極の〇〇べんとう」をつくったことで、食材の産地が分かったし、その県にも興味をもつことができた。



- 「究極の〇〇べんとう」づくりをしたことで、児童のやってみたい、調べてみたいという気持ちを高めることができた。
- 友達と協働して学習を進めることで、食材と自然条件との関連を白地図から読み取ることができた。
- これからも学ぶ楽しさやできる喜びが感じられる授業を計画していきたい。